
川 島 町

東野／平沼一丁田

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事に伴う
川島地区埋蔵文化財発掘調査報告
(第1分冊 東野遺跡)

2 0 0 9

国土交通省 関東地方整備局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 遺跡遠景（南から）



2 調査区全景

巻頭図版 2



1 遺跡遠景（東から）



2 東野遺跡出土土器



1 第4号住居跡出土土器 (第18図1)



3 第13号土壙出土土器 (第37図1)



2 第4号住居跡出土土器 (第18図2)



4 グリッド出土土器 (第57図74)



オニバス

分析の結果、炭化種実には
オニバスの種実も含まれていた。

東野遺跡の紹介

^{ひがしや}東野遺跡は、埼玉県^{かわしま}のほぼ中央部の荒川低地に位置する川島町にあります。川島町はその名のとおり、北は市野川、南は入間川、西は越辺川・都幾川、東は荒川と、まわりを川に囲まれています。遺跡は、荒川にかかる太郎衛門橋の上流約1 kmの荒川右岸にあり、現在は堤外の河川敷下となっている自然堤防上に位置しています。

遺跡は現在の地表面より約4.5 m地下にあり、洪水などによる厚い土砂に覆われていましたが、県内では発見例が少ない縄文時代前期の終わり（約5,400年前）の集落跡が発見されました。調査の結果、多くの遺構や遺物が検出され、貴重な資料を得ることができました。

また、住居跡や土壙の中に埋まっていた土の中には炭化した木片や、種実などの炭化物が多く含まれていました。それらを分析することによって、遺跡の実年代や植生など、当時の環境が明らかになってきました。

序

埼玉県では、「人と自然にやさしい道づくり」を道路整備の基本理念とし、体系的な道路網の整備と総合的な交通渋滞対策、そして生活圏の拡大による広域的な交通需要に対応できる十分な交通網の整備を進めております。

国土交通省が進める一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の建設もその一つであります。首都圏三環状道路の一翼を担い、首都圏に流入する交通を分散することによって交通渋滞の解消を目指すもので、また、新たな東西の交通軸を形成することにより、県内及び近隣地域との相互交流を深め、地域社会の活性化と調和のとれた発展を促進しようとするものであります。

この度、川島町域の圏央道建設予定事業地内に埋蔵文化財の存在が確認されたことから、その取り扱いについて埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課（当時）が関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず発掘調査を実施し、記録保存の処置を講ずることとなりました。発掘調査は、国土交通省関東地方整備局の委託を受けて当事業団が実施いたしました。

発掘調査の結果、東野遺跡では地表下4.5mの深さから縄文時代前期末の集落が、平沼一丁田遺跡では県内最古（古墳時代前期）の「布掘り」という特殊な基礎工事を用いた建物跡が発見されました。

本書は、これら発掘調査の成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護、普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として広くご活用いただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整にご尽力いただきました国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所をはじめ、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、川島町教育委員会並びに地元関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 刈 部 博

例言

1. 本書は、埼玉県比企郡川島町に所在する東野遺跡第1次、平沼一丁田遺跡第1次調査の発掘調査報告書である。

2. 遺跡の略号と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

東野遺跡第1次（HGSY）

埼玉県比企郡川島町大字三保谷字東野918番地

平成18年11月2日付け 教生文第2-63号

平沼一丁田遺跡第1次（HRNM）

埼玉県比企郡川島町大字平沼1341-7番地他

平成18年4月26日付け 教生文第2-6号

3. 発掘調査は、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査であり、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4. 発掘調査・整理報告書作成事業はⅠ-3の組織により実施した。発掘調査については、東野遺跡第1次調査は平成18年11月1日から平成19年1月31日まで実施し、剣持和夫・金子直行・栗岡潤が担当し、橋本勉の補助を得た。

平沼一丁田遺跡第1次調査は平成18年4月10日から平成18年8月31日まで実施し、上野真由美・福田聖が担当した。

また、整理報告書作成事業は、東野遺跡は平成20年6月2日から平成20年8月29日まで、平沼一丁田遺跡が平成20年6月2日から平成21年3月24日まで、宮井英一・上野・岡田勇介が担当して実施し、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第360集として印刷・刊行した。

5. 発掘調査における基準点測量は、精進測量設計株式会社（東野遺跡）、株式会社未央測地設計（平沼一丁田遺跡）に、空中写真撮影は、株式会社東京航業研究所（東野遺跡）、中央航業

株式会社（平沼一丁田遺跡）に委託した。

遺物の巻頭写真及び展開写真は小川忠博氏に委託した。

放射性炭素年代測定、炭化材樹種同定、土壌の炭素・窒素同位体比、プラント・オパール分析、炭化種実同定、骨の同定は株式会社パレオ・ラボに委託した。出土漆器の保存処理は株式会社吉田生物研究所に委託した。

6. 樹種及び種実の同定に関しては、能城修一氏、佐々木由香氏、村上由美子氏の協力を得た。

7. 黒曜石の産地分析、一部の石器・石製品の鋳物名の分析結果の同定は大屋道則が行った。

8. 発掘調査における写真撮影は各担当者と橋本が行い、出土遺物の写真撮影は富田和夫・宮井・岡田が行った。

9. 出土品の整理・図版作成は上野・岡田が行い、金子・鈴木孝之、兵ゆり子、矢田美知子、山北美穂の協力を得、中嶋淳子が補助した。

10. 本書の執筆は、Ⅰ-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、Ⅰ-2、3、Ⅲ-4（1）、（2）、（4）を上野、Ⅱを上野・岡田、Ⅲ-1、2、4（3）を金子、Ⅳ-1、2、3、4、6を岡田が行った。分析、保存処理の執筆は分析・保存各担当者が行った。

11. 本書の編集は宮井・上野・岡田が行った。

12. 本書に掲載した資料は平成21年度4月以降埼玉県教育委員会が管理・保管する。

13. 発掘調査、本書の作成にあたり、下記の機関・方々からご教示・ご協力を賜った。記して感謝いたします。（敬称略）

川島町教育委員会 磯野治司 馬橋泰雄

岡田賢治 及川良彦 駒井潔 笹森健一

清水康守 田中信 辻誠一郎 利根川宇平

平野寛之 藤沼昌泰 堀口萬吉 村田章人

山崎勝義

凡例

1. 遺跡全体におけるX・Yの数値は、世界測地系（新測地系）による国土標準平面直角座標第IX系（原点：北緯36°00′00″、東経139°50′00″）に基づく座標値を示し、各挿図に記した方位はすべて座標北を示す。

東野遺跡のC-3グリッド北西杭の座標は、 $X = -820.000\text{m}$ 、 $Y = -29290.000\text{m}$ 。北緯35°59′31″8095、東経139°30′30″5276である。

平沼一丁田遺跡のC-6グリッド北西杭の座標は、 $X = -1620.000\text{m}$ 、 $Y = -32480.000\text{m}$ 。北緯35°59′05″4882、東経139°28′23″2795である。
2. 調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10m×10mの範囲を基本（1グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。
3. グリッド名称は、北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に算用数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと算用数字を組み合わせ、例えばB-2グリッド等と呼称した。
4. 本書の本文、挿図、表中に記した遺構の略号は以下のとおりである。

S J…竪穴住居跡 S B…掘立柱建物跡
S A…柱穴列 S R…周溝状遺構
S E…井戸跡 S K…土壇 S C…集石土壇
S T…火葬土壇 S D…溝跡
S X…その他・特殊遺構
Pit…小穴・柱穴
5. 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。但し、一部例外もある。

全測図 1 : 150 1 : 400
遺構図 1 : 60 1 : 80 遺構拡大図 1 : 30
縄文土器・土師器・陶磁器など 1 : 4
土器拓影図 1 : 2 1 : 3 1 : 4
- 石器・石製品 2 : 3 1 : 2 1 : 3
金属製品・鉄製品 1 : 2 古銭 1 : 1
木製品 1 : 3 1 : 4 1 : 6 1 : 8
6. 実測図の表記方法は以下のとおりである。断面を黒塗りしたものは須恵器。また、彩色された土器についてはその範囲に網をかけて示した。（赤彩及び赤色漆10%・銅緑釉15%・油煙20%・黒色漆30%）
7. 遺構断面図に表記した水準数値は、海拔標高を表す。
8. 遺構図及び火葬炉壁実測図中、焼土範囲・柱痕跡20%、炭化物範囲60%、還元面範囲40%の網をかけて示した。
9. 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。
 - ・口径・器高・底径の単位はcm、重さの単位はgである。
 - ・口径・底径の（ ）内の数値は推定値、器高の[]内の数値は現存高を示す。
 - ・胎土は土器中に含まれる鉱物等のうち、特徴的なものを記号で示した。

A : 雲母 B : 片岩 C : 角閃石 D : 長石
E : 石英 F : 軽石 G : 砂粒子 H : 赤色粒子
I : 白色粒子 J : 白色針状物質
K : 黒色粒子 L : 礫
 - ・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けて示した。
 - ・色調は、『新版標準土色帖』に照らし、最も近い色相を記した。
 - ・残存率は、図示した器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。
 - ・備考には、出土位置、注記Noなどを記した。
10. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行1/25000・1/50000地形図、川島町都市計画図1/2500を使用・編集した。

目次

(第1分冊 東野遺跡)

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・報告書作成の組織	3
II 遺跡の立地と環境	4
III 東野遺跡の調査	13
1. 遺跡の概要	13
2. 遺構と遺物	19
(1) 住居跡	19
(2) 土壙	48
(3) 集石土壙	73
(4) 性格不明遺構	74
(5) 遺構確認トレンチ調査	75
(6) グリッド出土遺物	77
(7) 試掘出土遺物	88
3. 自然科学分析	91
(1) 放射性炭素年代測定	91
(2) 土壙出土炭化材の樹種同定	96
(3) 第1号集石土壙内土壌の 炭素・窒素同位体比測定	99
(4) プラント・オパール分析	101
(5) 出土炭化種実	106
(6) 出土骨同定	116
(7) 石器の理化学的分析	118
4. 調査のまとめ	125
(1) 調査の成果	125
(2) 東野遺跡と自然堤防上の 縄文時代の遺跡	126
(3) 東野遺跡出土の 十三菩提式土器について	128
(4) 東野遺跡出土の石器について	137

写真図版

(第2分冊 平沼一丁田遺跡)

巻頭図版

例言

凡例

目次

IV 平沼一丁田遺跡の調査	141
1. 遺跡の概要	141
2. 縄文時代の遺構と遺物	146
(1) 土壙	146
(2) 集石土壙	147
(3) グリッド出土遺物	148
3. 古墳時代の遺構と遺物	149
(1) 掘立柱建物跡	149
(2) 周溝状遺構	154
(3) 土壙	164
(4) 溝跡	166
(5) 遺物集中	171
(6) その他の遺物	173
4. 中・近世の遺構と遺物	173
(1) 掘立柱建物跡	175
(2) 柱穴列	191
(3) 井戸跡	192
(4) 土壙	211
(5) 火葬土壙	224
(6) 溝跡	226
(7) ピット	265
(8) その他の遺物	275
5. 自然科学分析・保存処理	278
(1) 出土木材の樹種	278
(2) 溝跡出土の種実同定	291
(3) 出土材の放射性炭素年代測定	292
(4) 漆器の保存処理	296
6. 調査のまとめ	298
(1) 平沼一丁田遺跡の変遷過程	298
(2) 古墳時代前期の掘立柱建物跡について	304

写真図版

挿図目次

(第1分冊 東野遺跡)

第1図	埼玉県地形	4	第31図	第8号住居跡遺物出土状況	44
第2図	周辺の地形	5	第32図	第8号住居跡出土遺物(2)	45
第3図	周辺の遺跡(縄文時代)	7	第33図	土壙(1)	49
第4図	周辺の遺跡(弥生時代以降)	9	第34図	土壙遺物出土状況(1)	50
第5図	東野遺跡位置図	14	第35図	土壙遺物出土状況(2)	51
第6図	東野遺跡全体図	15	第36図	土壙出土遺物(1)	53
第7図	基本土層図(1)	16	第37図	土壙出土遺物(2)	54
第8図	基本土層図(2)	18	第38図	土壙出土遺物(3)	55
第9図	第1号住居跡	20	第39図	土壙(2)	57
第10図	第1号住居跡遺物出土状況	21	第40図	土壙遺物出土状況(3)	58
第11図	第1号住居跡出土遺物	22	第41図	土壙遺物出土状況(4)	59
第12図	第2・3号住居跡	24	第42図	土壙出土遺物(4)	60
第13図	第2・3号住居跡遺物出土状況	25	第43図	土壙遺物出土状況(5)	62
第14図	第2号住居跡出土遺物	26	第44図	土壙出土遺物(5)	63
第15図	第3号住居跡出土遺物	27	第45図	土壙(3)	67
第16図	第4号住居跡	29	第46図	土壙遺物出土状況(6)	68
第17図	第4号住居跡遺物出土状況	30	第47図	土壙出土遺物(6)	69
第18図	第4号住居跡出土遺物(1)	31	第48図	土壙(4)	70
第19図	第4号住居跡出土遺物(2)	32	第49図	土壙遺物出土状況(7)	71
第20図	第5・7号住居跡	33	第50図	集石土壙	73
第21図	第5号住居跡遺物出土状況	34	第51図	集石土壙出土遺物	73
第22図	第5号住居跡出土遺物(1)	35	第52図	性格不明遺構	74
第23図	第5号住居跡出土遺物(2)	36	第53図	性格不明遺構出土遺物	75
第24図	第6号住居跡	38	第54図	トレンチ位置図	76
第25図	第6号住居跡遺物出土状況	39	第55図	トレンチ出土遺物	76
第26図	第6号住居跡出土遺物	39	第56図	グリッド出土遺物(1)	78
第27図	第7号住居跡遺物出土状況	40	第57図	グリッド出土遺物(2)	79
第28図	第7号住居跡出土遺物	40	第58図	グリッド出土遺物(3)	81
第29図	第8号住居跡	42	第59図	グリッド出土遺物(4)	83
第30図	第8号住居跡出土遺物(1)	43	第60図	グリッド出土遺物(5)	85
			第61図	グリッド出土遺物(6)	86

第62図	試掘位置図	88
第63図	試掘出土遺物	89
第64図	集石データ	90
第65図	測定試料出土遺構位置図・ 測定試料付着土器	92
第66図	暦年校正年代	95
第67図	同定試料出土遺構位置図	96
第68図	東野遺跡出土炭化材の 走査型電子顕微鏡写真	98
第69図	第1号集石土壙位置図	99
第70図	炭素・窒素同位体測定比のプロット図	100
第71図	土壌試料採取位置図・基本土層採取位置	101
第72図	東野遺跡のプラント・オパール分布図	103
第73図	東野遺跡のプラント・オパール	105
第74図	炭化種実採取遺構位置図	106
第75図	東野遺跡から出土した炭化種実(1)	113
第76図	東野遺跡から出土した炭化種実(2)	114
第77図	東野遺跡から出土した炭化種実(3)	115
第78図	骨検出遺構位置図	116
第79図	東野遺跡から出土した骨	117
第80図	X線回折のプロファイル	118
第81図	自然堤防上の縄文時代の遺跡	127
第82図	東野遺跡出土土器分類図	129
第83図	東野遺跡出土土器分布図	131
第84図	関連土器(1)	133
第85図	関連土器(2)	134
第86図	東野遺跡出土石器分布図	138

(第2分冊 平沼一丁田遺跡)

第87図	平沼一丁田遺跡調査地点位置図	142
第88図	調査区全測図	143
第89図	基本層序	144
第90図	第27号土壙・出土遺物	146
第91図	第1号集石土壙	147
第92図	第1号集石土壙出土遺物	148
第93図	グリッド出土遺物	148
第94図	古墳時代遺構配置図	150
第95図	第2号掘立柱建物跡	151
第96図	第2号掘立柱建物跡出土遺物	152
第97図	第7号掘立柱建物跡	153
第98図	第7号掘立柱建物跡出土遺物	154
第99図	第1号周溝状遺構	155
第100図	第1号周溝状遺構遺物出土状況	156
第101図	第1号周溝状遺構出土遺物	157
第102図	第2号周溝状遺構	158
第103図	第2号周溝状遺構遺物出土状況	159
第104図	第2号周溝状遺構出土遺物	160
第105図	第3号周溝状遺構	161
第106図	第3号周溝状遺構遺物出土状況	162
第107図	第3号周溝状遺構出土遺物	163
第108図	古墳時代の土壙	165
第109図	古墳時代の土壙出土遺物	165
第110図	古墳時代の溝跡(1)	167
第111図	第32号溝跡遺物出土状況	168
第112図	古墳時代の溝跡(2)	169
第113図	古墳時代の溝跡出土遺物	170
第114図	遺物集中遺物出土状況	172
第115図	遺物集中出土遺物	172
第116図	古墳時代のグリッド・表採遺物	173
第117図	中・近世遺構配置図	174
第118図	第1号掘立柱建物跡	175

第119図	第3号掘立柱建物跡……………176	第152図	中・近世溝跡全体図……………227
第120図	第3号掘立柱建物跡出土遺物……………177	第153図	中・近世溝跡区割り図(1)……………230
第121図	第4号掘立柱建物跡……………178	第154図	中・近世溝跡断面図(1)……………231
第122図	第4号掘立柱建物跡出土遺物……………179	第155図	中・近世溝跡出土遺物(1)……………232
第123図	第5号掘立柱建物跡……………180	第156図	中・近世溝跡出土遺物(2)……………233
第124図	第6号掘立柱建物跡……………181	第157図	中・近世溝跡出土遺物(3)……………234
第125図	第8号掘立柱建物跡……………182	第158図	中・近世溝跡出土遺物(4)……………235
第126図	第8号掘立柱建物跡出土遺物……………183	第159図	中・近世溝跡出土遺物(5)……………236
第127図	第9号掘立柱建物跡出土遺物……………184	第160図	中・近世溝跡出土遺物(6)……………237
第128図	第9号掘立柱建物跡……………185	第161図	中・近世溝跡出土遺物(7)……………238
第129図	第10号掘立柱建物跡……………186	第162図	第14号溝跡遺物出土状況(1)……………240
第130図	第11号掘立柱建物跡……………187	第163図	第14号溝跡遺物出土状況(2)……………241
第131図	第12号掘立柱建物跡……………188	第164図	中・近世溝跡出土遺物(8)……………243
第132図	第13号掘立柱建物跡……………189	第165図	中・近世溝跡出土遺物(9)……………244
第133図	第15号掘立柱建物跡……………190	第166図	中・近世溝跡出土遺物(10)……………245
第134図	柱穴列……………191	第167図	中・近世溝跡区割り図・断面図(2) ……………248
第135図	井戸跡(1)……………193	第168図	中・近世溝跡区割り図・断面図(3) ……………249
第136図	井戸跡(2)……………195	第169図	中・近世溝跡断面図(4)……………250
第137図	井戸跡(3)……………198	第170図	中・近世溝跡出土遺物(11)……………251
第138図	井戸跡(4)……………201	第171図	中・近世溝跡区割り図(4)……………253
第139図	井戸跡(5)……………203	第172図	中・近世溝跡断面図(5)……………254
第140図	井戸跡(6)……………205	第173図	中・近世溝跡断面図(6)……………255
第141図	井戸跡(7)……………207	第174図	ピット出土遺物……………265
第142図	井戸跡出土遺物(1)……………208	第175図	ピット全体図……………266
第143図	井戸跡出土遺物(2)……………209	第176図	ピット……………267
第144図	中・近世の土壌(1)……………212	第177図	ピット全体図区割り図……………267
第145図	第3号土壌遺物出土状況……………213	第178図	ピット区割り図(1)……………268
第146図	中・近世の土壌(2)……………216	第179図	ピット区割り図(2)……………269
第147図	中・近世の土壌(3)……………218	第180図	ピット区割り図(3)……………270
第148図	中・近世の土壌(4)……………221	第181図	ピット区割り図(4)……………271
第149図	中・近世の土壌出土遺物……………223	第182図	中・近世のグリッド・表採遺物……………276
第150図	第1・2号火葬土壌……………225		
第151図	中・近世溝跡全体図区割り図……………226		

第183図	樹種同定試料（1）	……………281	第193図	平沼一丁田遺跡の集落変遷（1）	…299
第184図	樹種同定試料（2）	……………282	第194図	平沼一丁田遺跡の集落変遷（2）	…300
第185図	平沼一丁田遺跡出土木材の 顕微鏡写真（1）	……………286	第195図	平沼一丁田遺跡の集落変遷（3）	…302
第186図	平沼一丁田遺跡出土木材の 顕微鏡写真（2）	……………287	第196図	平沼一丁田遺跡の集落変遷（4）	…303
第187図	平沼一丁田遺跡出土木材の 顕微鏡写真（3）	……………288	第197図	平沼一丁田遺跡検出の掘立柱建物跡 ……………	305
第188図	平沼一丁田遺跡出土木材の 顕微鏡写真（4）	……………289	第198図	埼玉県内の掘立柱建物跡 検出遺跡（1）	……………306
第189図	平沼一丁田遺跡出土の竹笹類	……………290	第199図	埼玉県内の掘立柱建物跡 検出遺跡（2）	……………307
第190図	平沼一丁田遺跡出土種実	……………292	第200図	掘立柱建物跡分布図	……………309
第191図	放射性炭素年代測定試料	……………293	第201図	埼玉県内の掘立柱建物跡の類型	……………311
第192図	放射性炭素年代測定及び 暦年較正の結果	……………295	第202図	関東地方の布掘り建物跡検出遺跡	…313
			第203図	布掘り建物跡分布図	……………315

表 目 次

(第1分冊 東野遺跡)

第1表	遺跡一覧表	12
第2表	第1号住居跡ピット計測表	21
第3表	第2・3号住居跡ピット計測表	24
第4表	第4号住居跡ピット計測表	29
第5表	第5・7号住居跡ピット計測表	37
第6表	第6号住居跡ピット計測表	39
第7表	第8号住居跡ピット計測表	46
第8表	住居跡一覧表	47
第9表	土壙・集土壙一覧表	47
第10表	石器一覧表	87
第11表	測定試料及び処理	93
第12表	放射性炭素年代測定及び 暦年校正の結果	94
第13表	出土炭化材の樹種組成	98
第14表	炭素・窒素同位体比測定結果	100
第15表	試料1g当たりの プラント・オパール個数	103
第16表	出土炭化種実	109
第17表	試料の観察結果と判定した岩石種	118
第18表	黒曜石分析一覧表	118

(第2分冊 平沼一丁田遺跡)

第19表	第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表	154
第20表	第1号周溝状遺構出土遺物観察表	157
第21表	第2号周溝状遺構出土遺物観察表	160
第22表	第3号周溝状遺構出土遺物観察表	164
第23表	古墳時代の土壙出土遺物観察表	166
第24表	古墳時代の溝跡出土遺物観察表	171
第25表	遺物集中出土遺物観察表	172
第26表	古墳時代のグリッド・表採遺物観察表 ……………	173
第27表	第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表	177

第28表	第3号掘立柱建物跡出土古銭観察表	177
第29表	井戸跡出土遺物観察表	210
第30表	中・近世の土壙出土遺物観察表	224
第31表	中・近世の溝跡出土遺物観察表	259
第32表	ピット出土遺物観察表	265
第33表	ピット一覧表	272
第34表	中・近世の グリッド・表採遺物観察表	277
第35表	中・近世の グリッド・表採古銭観察表	277
第36表	平沼一丁田遺跡出土木材樹種同定試料 ……………	279
第37表	平沼一丁田遺跡出土木材の樹種(1)	284
第38表	平沼一丁田遺跡出土木材の樹種(2)	285
第39表	種実同定結果	291
第40表	測定資料及び処理	293
第41表	放射性炭素年代測定及び 暦年校正の結果	294
第42表	埼玉県内の古墳時代前期掘立柱建物跡 ……………	308
第43表	埼玉県内の弥生時代掘立柱建物跡	308
第44表	掘立柱建物跡の平面形態	310
第45表	掘立柱建物跡の平面積	310
第46表	関東地方の布掘り建物跡	314
第47表	遺構番号新旧対応表	317
第48表	掘立柱建物跡一覧表	318
第49表	柱穴列一覧表	318
第50表	周溝状遺構一覧表	318
第51表	井戸跡一覧表	318
第52表	土壙一覧表	319
第53表	火葬土壙一覧表	320
第54表	溝跡一覧表	320

写真図版目次

(第1分冊 東野遺跡)		8	第9号土壙
巻頭図版1	1 遺跡遠景(南から)	図版9	1 第10号土壙
	2 調査区全景		2 第12号土壙
巻頭図版2	1 遺跡遠景(東から)		3 第13号土壙
	2 東野遺跡出土土器		4 第13号土壙遺物出土状況
巻頭図版3	1 第4号住居跡出土土器		5 第15号土壙
	2 第4号住居跡出土土器		6 第16号土壙
	3 第13号土壙出土土器		7 第17号土壙
	4 グリッド出土土器		8 第17号土壙遺物出土状況
図版1	1 調査区遠景(北から)	図版10	1 第18号土壙
	2 調査区遠景(西から)		2 第19号土壙
図版2	1 調査区全景(北から)		3 第20号土壙
	2 調査区全景(南から)		4 第20号土壙遺物出土状況
図版3	1 調査区全景(西から)		5 第21号土壙
	2 基本土層(1)		6 第21号土壙遺物出土状況
	3 基本土層(2)		7 第22号土壙
図版4	1 第1号住居跡		8 第22号土壙遺物出土状況
	2 第1号住居跡遺物出土状況	図版11	1 第23号土壙
	3 第1号住居跡上面炭化物検出状況		2 第24号土壙
図版5	1 第1号住居跡下面炭化物検出状況		3 第26号土壙
	2 第1号住居跡土層断面		4 第27・28号土壙
	3 第2・3号住居跡		5 第29号土壙
図版6	1 第4号住居跡		6 第30号土壙
	2 第4号住居跡遺物出土状況		7 第31号土壙
	3 第5号住居跡		8 第32号土壙
図版7	1 第6号住居跡	図版12	1 第38・39号土壙
	2 第7号住居跡		2 第40号土壙
	3 第8号住居跡		3 第41号土壙
図版8	1 第1号土壙		4 第42号土壙
	2 第2号土壙		5 第1号集石土壙
	3 第3号土壙		6 第1号集石土壙土層断面図
	4 第3号土壙遺物出土状況		7 第1号性格不明遺構
	5 第5号土壙		8 第1号性格不明遺構遺物出土状況
	6 第6号土壙	図版13	1 第8号住居跡出土遺物
	7 第7号土壙		2 第3号土壙出土遺物

	3	第17号土壙出土遺物		2	調査区西側壁面
	4	第21号土壙出土遺物	図版26	1	第2・3・4・8号掘立柱建物跡
	5	第1号住居跡出土遺物		2	第5・6・9・12・13号 掘立柱建物跡
図版14	1	第2号住居跡出土遺物		3	第1号掘立柱建物跡
	2	第3号住居跡出土遺物・4号住居跡 出土遺物(1)	図版27	1	第2号掘立柱建物跡
図版15	1	第4号住居跡出土遺物(2)		2	第2号掘立柱建物跡ピット2 礎板出土状況
	2	第5号住居跡出土遺物(1)		3	第2号掘立柱建物跡ピット5 礎板出土状況
図版16	1	第5号住居跡出土遺物(2)	図版28	1	第3号掘立柱建物跡・第1号柱穴列
	2	第6・7号住居跡出土遺物		2	第3号掘立柱建物跡ピット4 柱材出土状況
図版17	1	第8号住居跡出土遺物(1)		3	第4号掘立柱建物跡
	2	第8号住居跡出土遺物(2)	図版29	1	第4号掘立柱建物跡ピット7 柱材出土状況
図版18	1	第1・2・4・8号土壙出土遺物		2	第5号掘立柱建物跡
	2	第9～12・15号土壙出土遺物		3	第6号掘立柱建物跡
	3	第16・20号土壙出土遺物	図版30	1	第7号掘立柱建物跡
図版19	1	第17号土壙出土遺物		2	第8号掘立柱建物跡
	2	第18号土壙出土遺物		3	第9号掘立柱建物跡
	3	第21号土壙出土遺物	図版31	1	第9号掘立柱建物跡ピット1 遺物出土状況
図版20	1	第22号土壙出土遺物		2	第10号掘立柱建物跡
	2	第34号土壙出土遺物		3	第11号掘立柱建物跡
	3	第37・39・40号土壙出土遺物	図版32	1	第12号掘立柱建物跡
図版21	1	第41・46号土壙出土遺物		2	第13号掘立柱建物跡
	2	第1号性格不明遺構出土遺物		3	第15号掘立柱建物跡
	3	トレンチ出土遺物	図版33	1	第1号周溝状遺構遺物出土状況(1)
図版22	1	グリッド出土遺物(1)		2	第1号周溝状遺構遺物出土状況(2)
	2	グリッド出土遺物(2)		3	第1号周溝状遺構遺物出土状況(3)
図版23	1	グリッド出土遺物(3)	図版34	1	第1号周溝状遺構遺物出土状況(4)
	2	グリッド出土遺物(4)		2	第2号周溝状遺構
図版24	1	グリッド出土遺物(5)		3	第2号周溝状遺構遺物出土状況(1)
	2	試掘出土遺物	図版35	1	第2号周溝状遺構遺物出土状況(2)
(第2分冊 平沼一丁田遺跡)				2	第2号周溝状遺構遺物出土状況(3)
巻頭図版1	1	遺跡遠景(1)		3	第3号周溝状遺構
	2	遺跡遠景(2)			
巻頭図版2	1	調査区全景			
	2	平沼一丁田遺跡出土陶磁器			
図版25	1	調査区全景 東から			

图版36	1 第3号周溝状遺構遺物出土狀況(1)	2 第8号溝跡
	2 第3号周溝状遺構遺物出土狀況(2)	3 第8号溝跡遺物出土狀況(1)
	3 第3号周溝状遺構遺物出土狀況(3)	图版44 1 第8号溝跡遺物出土狀況(2)
图版37	1 第5·12号井戸跡	2 第14号溝跡
	2 第14号井戸跡	3 第14号溝跡遺物出土狀況(1)
	3 第14号井戸跡遺物出土狀況(1)	图版45 1 第14号溝跡遺物出土狀況(2)
	4 第14号井戸跡遺物出土狀況(2)	2 第14号溝跡遺物出土狀況(3)
	5 第15号井戸跡	3 第14号溝跡遺物出土狀況(4)
	6 第15号井戸跡遺物出土狀況	图版46 1 第32号溝跡
	7 第26号井戸跡	2 第32号溝跡遺物出土狀況(1)
	8 第27号井戸跡	3 第32号溝跡遺物出土狀況(2)
图版38	1 第29号井戸跡遺物出土狀況(1)	图版47 1 第38·39号溝跡
	2 第29号井戸跡遺物出土狀況(2)	2 第43号溝跡
	3 第37·39号井戸跡	3 第48号溝跡遺物出土狀況(1)
	4 第41号井戸跡	图版48 1 第48号溝跡遺物出土狀況(2)
	5 第3号土壙遺物出土狀況(1)	2 遺物集中
	6 第3号土壙遺物出土狀況(2)	3 遺物集中遺物出土狀況
	7 第3号土壙	图版49 1 第1号周溝状遺構
	8 第15号土壙	2·4·5·6 第2号周溝状遺構
图版39	1 第16号土壙遺物出土狀況	3·7 第3号周溝状遺構
	2 第27号土壙檢出狀況	图版50 1·5 第1号周溝状遺構
	3 第27号土壙遺物出土狀況(1)	2 第2号周溝状遺構
	4 第27号土壙遺物出土狀況(2)	3·4·6·7 第3号周溝状遺構
	5 第1号集石土壙檢出狀況	图版51 1 第3号溝跡
	6 第1号集石土壙遺物出土狀況(1)	2·3 第32号溝跡
	7 第1号集石土壙遺物出土狀況(2)	4·5 遺物集中
	8 第1号集石土壙	6 表採
图版40	1 第1号火葬土壙遺物出土狀況	7 第1号周溝状遺構
	2 第1号火葬土壙	8 第2号周溝状遺構
	3 第2号火葬土壙遺物出土狀況	图版52 1·4 第3号周溝状遺構
图版41	1 第2号火葬土壙	2·3 第1号周溝状遺構
	2 第1·2号溝跡	5 第3号溝跡
	3 第2号溝跡遺物出土狀況(1)	6 遺物集中
图版42	1 第2号溝跡遺物出土狀況(2)	图版53 1 第2号井戸跡
	2 第3号溝跡	2 第15号井戸跡
	3 第7号溝跡	3·7 第2号溝跡
图版43	1 第7号溝跡遺物出土狀況	4 第8号溝跡

- 5 第25号溝跡
6 第14号溝跡
8 第16号溝跡
9 第25号井戸跡
図版54 1・3・4・6 第2号溝跡
2 第1号溝跡
5・7・8 第14号溝跡
図版55 1 第1号井戸跡
2 第25号井戸跡
3 第35号井戸跡
4～6 第1号溝跡
7～9 第2号溝跡
10 第25号溝跡
図版56 1・2 第14号溝跡
3 第14号井戸跡
4 第7号溝跡
5 第1号溝跡
6 第2号溝跡
図版57 1 第8号溝跡
2 第14号溝跡
3 第7号溝跡
4 第1号溝跡
5 第2号溝跡
6 第11号溝跡
図版58 1 第14号溝跡
2 第1・24号溝跡
3・4 第3号土壇
5 第2・13号土壇
図版59 1 第27号土壇
- 2 第1号集石土壇
3 グリッド出土遺物
図版60 1 第5・14・25・44号井戸跡
2 第1号溝跡
3 第2号溝跡
図版61 1 第2・6号溝跡
2 第14号溝跡
3 第16・23・24号溝跡
図版62 1 第25号溝跡
2 第32号溝跡
3 グリッド・表採
図版63 1 第2号掘立柱建物跡ピット2
2・3 第4号掘立柱建物跡ピット7
4 第8号掘立柱建物跡ピット10
5・7 第14号井戸跡
6・8 第22号井戸跡
図版64 1～4 第29号井戸跡
5 第8号土壇
6 第1号溝跡
図版65 1・3 第1号溝跡
2・4 第2号溝跡
図版66 1・2 第11号溝跡
3～6 第14号溝跡
図版67 1～4 第14号溝跡
図版68 1～7 第14号溝跡
8 平沼一丁田遺跡出土種実
図版69 1 石製品
2 古銭
3 鉄製品

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、円滑な道路交通実現のため、体系的な道路網の整備と総合的な交通渋滞対策として、高速道路やインターチェンジ等の整備を推進している。こうした中で、国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所が建設を進める首都圏中央連絡自動車道は県土の東西を結ぶ大動脈として完成が待たれてきた。

埼玉県教育局指導部文化財保護課（当時）では、首都圏中央連絡自動車道建設に係る埋蔵文化財の保護について、昭和62年度から関係機関と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

当該事業のうち、比企郡川島町平沼地先より桶川市五丁台地先については、建設省関東地方整備局大宮国道工事事務所長（当時）から、平成10年11月10日付け大国調二第30号で、当県教育長あて、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

これに対して生涯学習文化財課は、平成17年11月10日（川島町大字平沼地内）及び平成18年7月4日（同大字三保谷地内）に遺跡所在及び範囲等確認のための試掘調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の所在が明確になり、平成17年12月28日付け教生文第2198号（平沼一丁田遺跡）及び平成18年9月12日付け教生文第1345号（東野遺跡）で、工事予定地所在の埋蔵文化財包蔵地について、工事着手に先立つ文化財保護法第94条の規定による発掘通知の提出と、文化財所在範囲におけるやむを得ない現状変更の場合の記録保存のための発掘調査実施を回答した。回答に係る埋蔵文化財は次の通りである。

1 埋蔵文化財の所在

名称：平沼一丁田遺跡（遺跡コードNo.37-025）

種別：集落跡

時代：古墳・江戸

所在地：川島町大字平沼1341-7番地他

名称：東野遺跡（遺跡コードNo.37-026）

種別：集落跡

時代：縄文

所在地：川島町大字三保谷字東野918番地

2 取り扱い

国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所と生涯学習文化財課・川島町教育委員会は、その取扱いについて協議を重ね、現状保存は困難であることから記録保存の措置を講ずることになった。

その後、発掘調査実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所・生涯学習文化財課の三者で工事日程、調査計画、調査期間などについて協議した。

文化財保護法第94条1項の規定による埋蔵文化財発掘通知が国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所長から提出され、同条4項の規定により、記録保存のための発掘調査を実施するよう埼玉県教育委員会教育長から勧告した。次いで、第92条1項の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、発掘調査が実施された。

発掘通知及び発掘調査届に対する県教育委員会教育長からの勧告及び指示通知は次のとおりである。

平沼一丁田遺跡

発掘通知：平成18年1月20日付け大国工第247号

発掘通知に対する勧告：

平成18年2月6日付け教生文第3-994号

発掘調査届に対する指示通知：

平成18年4月26日付け教生文第2-6号

東野遺跡

発掘通知：平成18年10月25日付け大国工第180号

発掘通知に対する勧告：

平成18年11月2日付け教生文第3-858号

発掘調査届に対する指示通知：

平成18年11月2日付け教生文第2-63号

(生涯学習文化財課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

東野遺跡の発掘調査

東野遺跡の発掘調査は、平成18年11月1日から平成19年1月31日まで調査を実施した。調査面積は310㎡である。

11月から重機による表土の掘削を開始し、発掘事務所を設置した。11月後半から人力による遺構の確認作業に入り、11月下旬に基準点測量を行った。確認された遺構は、順次精査を行い土層断面図、平面図等の記録を作成し、遺構の写真撮影を行った。また、1月後半に空中写真撮影を行った。

1月下旬、器材の撤収、発掘事務所の撤去を行い、すべての作業を終了した。

平沼一丁田遺跡の発掘調査

平沼一丁田遺跡の発掘調査は、平成18年4月10日から平成18年8月31日まで調査を実施した。調査面積は3,500㎡である。

4月から重機による表土の掘削を開始し、発掘事務所を設置した。4月後半から人力による遺構の確認作業に入り、4月下旬に基準点測量を行った。確認された遺構は、順次精査を行い土層断面図、平面図等の記録を作成し、遺構の写真撮影を行った。7月下旬には空中写真撮影を行った。

また、7月29日に埼玉県教育委員会、当事業団主催、川島町教育委員会共催で遺跡見学会を実施した。

8月下旬、器材の撤収、発掘事務所の撤去を行い、すべての作業を終了した。

(2) 整理報告書作成

整理報告書作成作業は、東野遺跡は平成20年6月2日から平成20年8月29日まで、平沼一丁田遺跡が平成20年6月2日から平成21年3月24日まで実施した。

第1分冊である東野遺跡は、6月から出土遺物の水洗・注記を行なった後、接合・復元作業に着手した。接合・復元が終了した遺構から順次、実測遺物・土器破片を抽出し、遺物実測を開始した。遺物は機械実測（3スペースなど）を利用して素図を作成し、この素図をもとに実測図を完成させた。

遺構図の作成は、遺物の作業と並行して行った。図面整理と修正を経て第二次原図を作成した。第二次原図はスキャナーでコンピューターに取り込んだ後、画像編集ソフトを用いて遺構図のトレース・土層説明等の入力データを組み込んで編集作業を実施し、遺構図版の版下を作成した。

7月から実測遺物のトレース作業を開始した。また選別した土器破片の断面実測、拓本作業に取りかかり、順次、トレース作業に入った。

7月半ばから遺物のトレースが完了した遺構ごとに遺物図版組み作業を開始した。遺物の実測を終えて、7月末にトレース作業を完了した。

8月には原稿執筆、遺物・遺構図面の割付に着手した。また遺構写真を選択し、遺物の写真撮影を行った後、写真図版の割付作業に着手し、コンピューター内で編集を行った。

8月下旬に原稿執筆を終えて、編集作業を行った。また遺物や図面・写真等の記録類を整理、分類し、収納作業を行った。

第2分冊である平沼一丁田遺跡は、6月から出土遺物の水洗・注記を行なった後、接合・復元作業に着手した。接合・復元が終了した遺構から順次、実測遺物を抽出し、遺物実測を開始した。遺物は機械実測（3スペースなど）を利用して素図を作成し、この素図をもとに実測図を完成させた。また遺物の拓本作業も順次行った。

遺構図の作成は、遺物の作業と並行して行った。図面整理と修正を経て第二次原図を作成した。第二次原図はスキャナーでコンピューターに取り込んだ後、画像編集ソフトを用いて遺構図のトレース・土層説明等の入力データを組み込んで編集作業を実施し、遺構図版の版下を作成した。

7月から実測遺物のトレース作業を開始した。9月下旬から遺物のトレースが完了した遺構ごと

に、遺物図版組み作業を開始した。10月半ばには遺物の実測を終えて、10月末にトレース作業を完了した。

11月には原稿執筆、遺物・遺構図面の割付に着手した。また遺構写真を選択し、下旬には遺物の写真撮影を行った後、写真図版の割付作業に着手し、コンピューター内で編集を行った。

12月末までに原稿執筆を終えて、編集作業を行った。1月下旬に印刷業者を選定して、既に終了している東野遺跡と合わせて入稿した。

2月には遺物や図面・写真等の記録類を整理、分類し、収納作業を行った。

3回の校正を経て、平成21年3月24日に報告書を刊行した。

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成18年度（発掘調査）

理 事 長	福 田 陽 充	調 査 部	
常務理事兼総務部長	岸 本 洋 一	調 査 部 長	今 泉 泰 之
総務部		調 査 部 副 部 長	小 野 美 代 子
総 務 部 副 部 長	昼 間 孝 志	調 査 第 一 課 長	金 子 直 行
総 務 課 長	高 橋 義 和	企 画 課 長	劔 持 和 夫
		主 査	上 野 真 由 美
		主 査	福 田 聖
		主 任	栗 岡 潤

平成20年度（報告書作成）

理 事 長	刈 部 博	調 査 部	
常務理事兼総務部長	萩 元 信 隆	調 査 部 長	村 田 健 二
総務部		調 査 部 副 部 長	磯 崎 一
総 務 部 副 部 長	昼 間 孝 志	整 理 第 一 課 長	宮 井 英 一
総 務 課 長	松 盛 孝	主 査	上 野 真 由 美
		主 事	岡 田 勇 介

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

東野遺跡と平沼一丁田遺跡は川島町に位置し、東野遺跡は川島町大字三保谷字東野918番地、平沼一丁田遺跡は川島町大字平沼1341-7番地他に所在している。

遺跡の所在する川島町は、第1図の埼玉県地形図でみるように、埼玉県のほぼ中央の荒川低地に位置し、四方を河川によって囲まれる東西11.2km、南北7.9kmの島状地形を呈している。

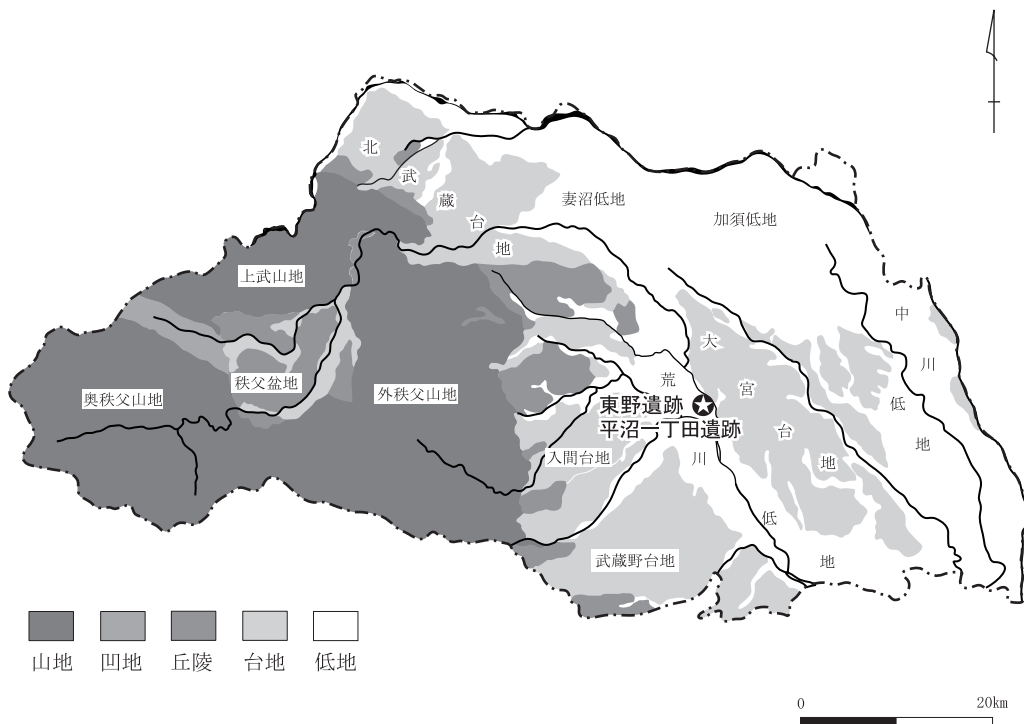
四方には、西側に越辺川・都幾川、東側に荒川、北側に市野川、南側に入間川が、川島町を囲むように流下して合流しており、町は河川の氾濫を免れない土地であったことは明らかである。それは、第2図の周辺の地形図に見られるように、大きく蛇行を繰り返す自然堤防の形状からも類推することができる。

現在の川島町は、堤防によって区切られる川表

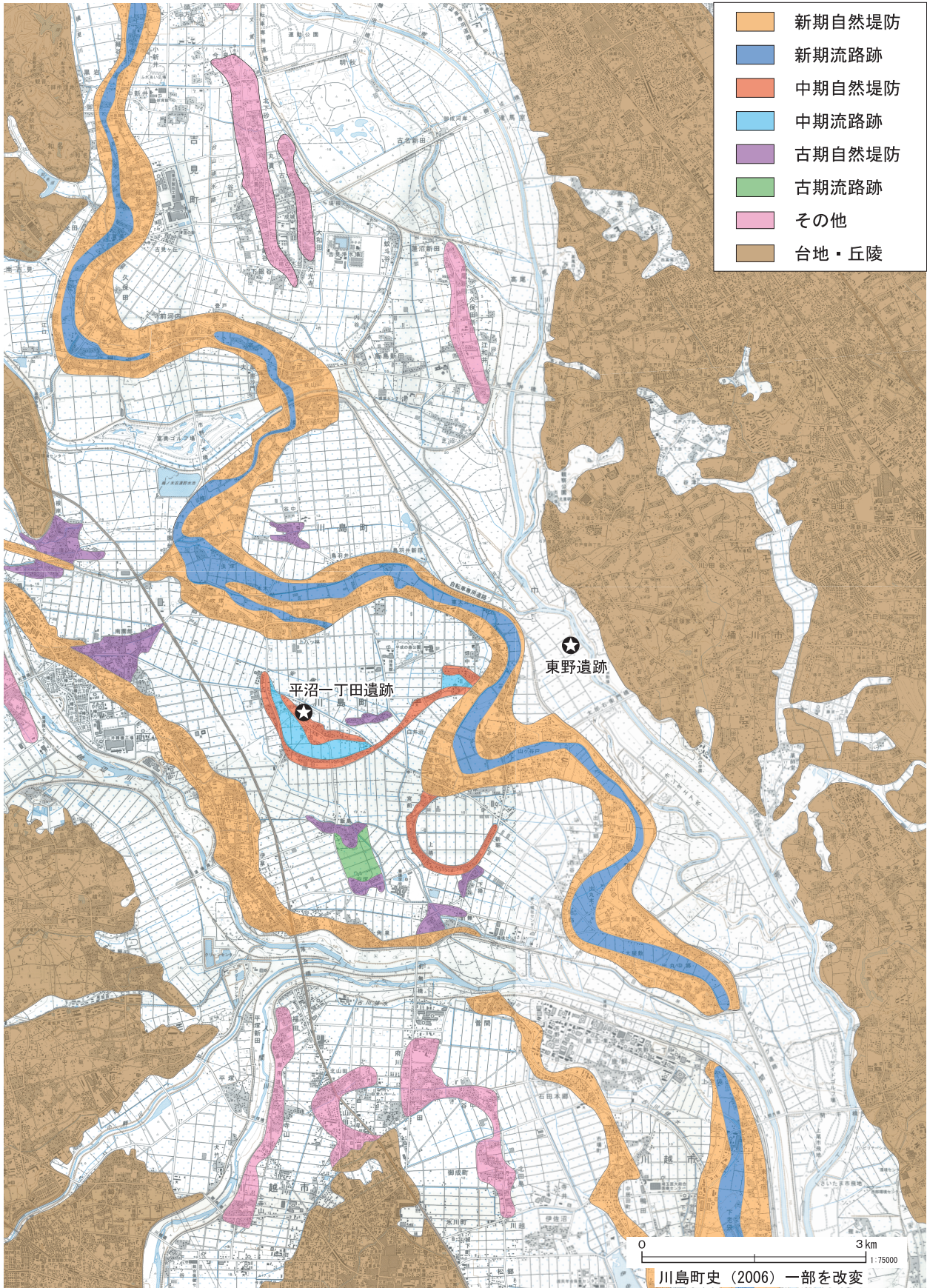
側を堤外、堤防の内側を堤内と呼んでおり、堤内側の自然堤防上に集落が形成されている。

町の地形は自然堤防・流路跡・後背湿地に区分することができる。自然堤防は河川沿いに形成されるもので、周辺よりも若干標高が高くなるため、現在では宅地や畑地に利用されている。また、低地として広がる後背湿地は多くが水田として利用されている。写真図版の航空写真からも分かるように、それぞれの地形の特徴を生かした土地利用は、第2図で示したように、現在にいたるまで自然堤防や流路跡を良好に保存してきたと言える。

川島町の自然堤防は、近年の研究によって切り合い関係から、それぞれ古期、中期、新期に分類されている（川島町2006など）。現在でも明瞭に残存している新期自然堤防は、町の中央を大きく蛇行しながら北西から南東方向に蛇行しているも



第1図 埼玉県の地形



第2図 周辺の地形

ので、自然堤防は2本が並行しており、その内側の低い部分が新規流路跡とされている。また、現在の越辺川沿いにも新期自然堤防が認められる。

中期自然堤防は、新期自然堤防によって分断されているもので、部分的に2本が並行していることから、その間を中期流路跡としている。平沼一丁田遺跡も中期自然堤防上に位置している（第2図）。他に白井沼遺跡（第3図11）が調査されている。両遺跡ともに、縄文時代中期の遺構・遺物が検出され、中期自然堤防が少なくとも縄文時代中期には形成されていたことがわかる。

2. 歴史的環境

東野遺跡、平沼一丁田遺跡が所在する中流域の荒川低地に位置する川島町を中心として、時代ごとに歴史的な環境を概観する。

旧石器時代

川島町が所在する低地には、旧石器時代の遺跡は存在していない。後期旧石器時代には、荒川筋に深い谷が形成されていたと考えられており、川島町はその谷の中に位置していたものと考えられる。しかし、荒川の対岸の台地上からは、多くの後期旧石器時代の遺跡が発見されている。

縄文時代

縄文時代の川島町では、草創期から早期前半の土器群は出土していない。

縄文時代の早期末から前期中葉にかけて海進・海退がみられた時期にあたり、荒川左岸の大宮台地上には海進が進む早期末に上尾市平方貝塚（126）や、桶川市谷津貝塚（112）が形成されていることから、早期末には川島町の出丸付近まで入江となっていたことが推定される。

東野遺跡は、川島町の堤外地にあたる荒川右岸の河川敷から検出された遺跡であるが、周辺の荒川流域の河床でも縄文時代の土器の散布地が多く確認されている。左岸には桶川市荒川河床内遺跡（114）、すぐ北側に荒川河床市野川合流地点遺跡

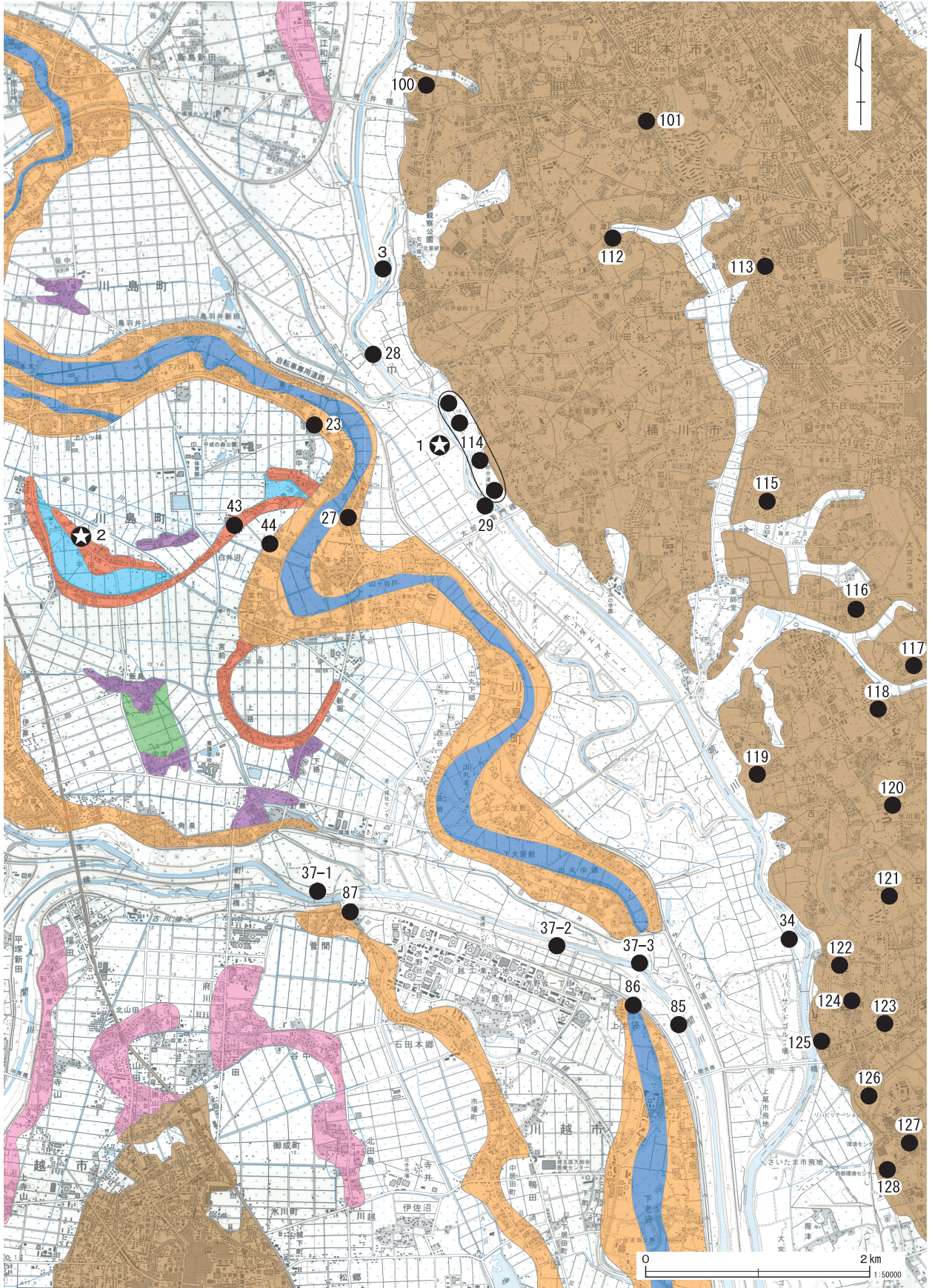
古期自然堤防や古期流路跡は大きく蛇行する新期や中期自然堤防によって、さらに分断されるため、部分的に認められている状況である。荒川の河川敷に位置する東野遺跡は、土砂が厚く堆積しているため、現在の地表面からはその地形を明らかにできない。しかし、上流に位置する縄文時代前期後半の遺構・遺物が検出された芝沼堤外遺跡（第3図8）が、同様に地表面下5mから発見されたことは、縄文時代前期と推定される古期自然堤防が現荒川の河川敷下にも存在していたことを示唆している。

（28）、太郎衛門橋との間には荒川の両岸に川島町荒川河床太郎衛門橋付近遺跡（29）が所在している。遺跡からは、縄文時代前期の諸磯式土器や、中期後半の加曾利E式土器などが採集されており、特に荒川河床内遺跡からは中期初頭の五領ヶ台Ⅱ式土器が採集されている。

また東野遺跡の1.5kmほど北側の旧荒川右岸の河川敷には、芝沼堤外遺跡（3）が立地している。遺跡は地表面下5mから検出され、調査によって縄文時代前期後半の住居跡や土壌が検出された。また、縄文時代前期の包含層からは、諸磯b式新段階から十三菩提式までの土器群が、間層を挟みながら、層位的に確認されている。

東野遺跡から、南側5.5km下流には荒川河床遺跡（34）が位置し、発掘調査によって縄文時代後期の堀之内式土器の破片が含まれる遺物包含層が確認されている。

川島町の南端を東西方向に流れる入間川の河床においても、土器の散布地が多く分布している。入間川河床遺跡にはA地点（37-1）・D地点（37-2）・G地点（37-3）があるが、D地点からは早期終末の条痕文系土器が1点検出され、川島町内では最古の土器となっている。各地点ともに縄文時代前期中葉の繊維土器が検出されている。



第3図 周辺の遺跡（縄文時代）

川越市入間川西河床遺跡（87）と入間川東河床遺跡（86）からは諸磯式期の土器が出土している。

荒川、入間川の河床では土器の散布地が広域に分布しており、前期の土器が比較的多く検出されている。東野遺跡や芝沼堤外遺跡が地表下4～5mから検出されたことを考慮すると、氾濫などによる厚い堆積層の下に縄文時代前期の遺跡が埋没している可能性が高い。

荒川左岸の台地上では、前期は関山式期で北本市宮岡Ⅱ遺跡（100）、上尾市後山遺跡（115）、宿北Ⅱ遺跡（124）、黒浜式期では上尾市宮内Ⅳ遺跡（119）、宿北Ⅴ遺跡（123）、諸磯式期では北本市氷川神社北遺跡（101）、桶川市愛宕西遺跡（113）、上尾市小谷津遺跡（116）、在家遺跡（121）などが存在する。今後、東野遺跡や芝沼堤外遺跡などのように低地に立地する遺跡の調査例が増加すれば、台地では得ることのできなかった、当時の様相が明らかになっていくものと考えられる。

次に、堤外の縄文時代の様相に対し、現在でも多くの自然堤防が地表面に認められる堤内の縄文時代の様相であるが、近年の発掘調査によって徐々に明らかにされてきている。

古期自然堤防上では、明確な遺跡はなく、いつの時期の遺跡が古期自然堤防上に営まれるのか、現在のところ不明である。

中期自然堤防上では、今回報告する平沼一丁田遺跡（2）と白井沼遺跡（43）が挙げられる。平沼一丁田遺跡では、縄文時代中期の勝坂式期の集石土壙1基、加曾利EⅠ式期の土壙1基が検出された。また白井沼遺跡では加曾利EⅠ式期初頭の土壙と後期称名寺式の土器が検出された。東野遺跡のように明確な層位で確認されてはいないが、平沼一丁田遺跡では時期差のある遺構が検出されており、中期において一定期間の安定的な時期があったものと考えられる。

新期自然堤防上では、町の中央部を蛇行する自然堤防上で村並遺跡（23）、富田後遺跡（44）、元

宿遺跡（27・平成20・21年度整理）が存在する。村並遺跡からは、後期の堀之内式土器を中心として、前期諸磯式、中期の土器が検出されている。富田後遺跡からは後期前葉の堀之内式の土壙が検出されている。元宿遺跡からは、後期の堀之内式から安行式までの土器が検出されている。遺跡に共通する堀之内式期には、安定した環境が存在していたと推定される。また町の西側越辺川沿いの新期堤防上では、堂地遺跡（40）で縄文時代後期前葉の堀之内式土器片が1点検出されている。

堤内の自然堤防上の縄文時代の遺跡は、いずれも古墳時代前期などの遺跡が営まれ、その下部から発見されている。また、自然堤防の堆積の厚さによっては、さらに地下深くに縄文時代の遺跡が埋まっている可能性も考えられる。今後は堤外も含め、自然堤防の土層堆積の比較検討を行い、低地における縄文時代の遺跡の様相を考えていく必要がある。

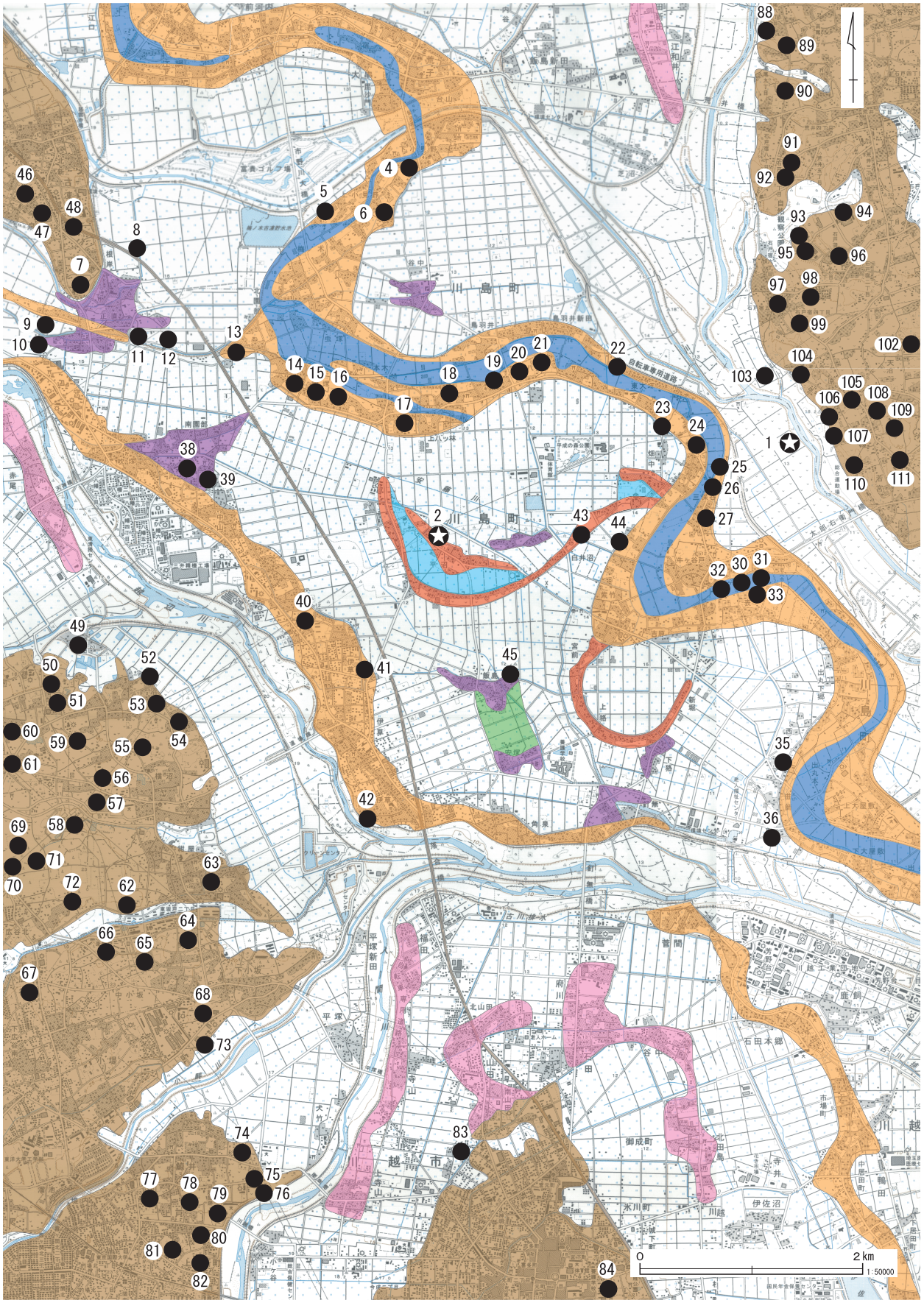
弥生時代

周辺では、新期自然堤防上の村並遺跡、元宿遺跡が挙げられる。村並遺跡からは中期の条痕文系土器が1点出土しており、元宿遺跡からも、中期の土器が検出されている。他の自然堤防上では弥生時代の様相は不明確であるが、今後両遺跡が立地する新期自然堤防上から遺構が検出される可能性は高いと考えられる。

古墳時代

近年の調査例の増加によって、古墳時代前期になると、低地の自然堤防上において、平沼一丁田遺跡などのように集落が本格的に営まれていたことが明らかになってきた。

古期自然堤防上では不明であるが、遺構が確認された遺跡としては、中期自然堤防上で平沼一丁田遺跡、白井沼遺跡が、新期自然堤防上で尾崎遺跡（24）、元宿遺跡、富田後遺跡が挙げられる。それらの遺跡からは、周溝状遺構と呼ばれる居住施設、掘立柱建物跡、井戸跡が検出されることが



第4図 周辺の遺跡（古墳時代以降）

特徴的である。周溝状遺構は、溝で区画し内部に建物跡などの施設を構築したものと考えられるが、溝内部の建物跡の痕跡は後世の攪乱などによって失われているのが現状である。富田後遺跡では105基の周溝状遺構が検出されており、大規模な集落跡となっている。これらの調査例から川島町の低地の居住施設は、周溝状遺構が一般的であったと考えられる。

しかしながら、平沼一丁田遺跡から5 kmほど北西の自然堤防上に立地する古墳時代前期の反町遺跡では竪穴住居が居住施設として選択されており、周溝状遺構が、低地における居住施設の選択肢の1つであったのか、何らかの機能を有していたのかは今後の課題である。

周辺の台地上の古墳時代前期の遺跡では、竪穴住居跡や方形周溝墓などが検出されており、周溝状遺構は検出されず、掘立柱建物跡も低地と比較すると検出例は少ない。東松山台地上では標式遺跡となる五領遺跡、下道添遺跡(47)、入間台地上では坂戸市木曾免遺跡(54)、北谷遺跡(55)、高窪遺跡(63)が台地の縁辺に立地している。大宮台地上では北本市阿弥陀堂遺跡(88)、問屋坂遺跡(92)、八重塚遺跡(94)、諏訪山北遺跡(93)がある。桶川市では台原遺跡(104)、西台遺跡(106)などが台地の縁辺に位置している。

また、管玉の玉作りの工程途中の遺物などが多量に検出された川島町正直玉作遺跡(12)は、時期が不明確であったが、近年の調査で、古墳時代前期の玉作り遺跡が周辺で見つかっていることから、その関連性について再検討が行われている。

古墳時代中期の遺構・遺物の発見例はないが、古墳時代後期になると、新期自然堤防上に多くの古墳が築造されている。廣徳寺古墳(30)は、平成4年に墳丘東側の墓所改修に伴い、川島町教育委員会によって調査が実施された。周堀の一部が検出され、6世紀後半と考えられる円筒埴輪、須恵器、土師器が出土している。大塚古墳(22)は、

文化年中(1804~1817)に墳頂が削平され、緑泥片岩を使用した箱式石棺と副葬品が掘り出されたとされる。

その他、富田後遺跡では発掘調査の結果、墳丘が失われていたため地表面では確認できなかった古墳群の周堀が検出されている。D区第3号墳においては、馬形埴輪の破片とともに方形の透孔を持つ円筒埴輪の破片が出土している。

後期の集落跡については、この富田後遺跡と旧河川跡を挟んだ対岸の自然堤防上に立地する元宿遺跡から、住居跡の他、多くの掘立柱建物跡が検出されている。遺構から出土した須恵器や土師器から、6から7世紀の年代が考えられている。富田後遺跡とはわずか200 m程しか離れておらず、集落と古墳との関連性が注目されている。また尾崎遺跡からは、住居跡4軒、土壇4基が検出されている。村並遺跡からは遺構は検出されなかったが、土師器や須恵器が出土している。

奈良・平安時代

町内における律令期の集落の調査例は少ないが、越辺川に面する新期自然堤防上の堂地遺跡からは、竪穴住居跡11軒、土壇9基が検出されている(若松2000)。町中央部の新期自然堤防上では尾崎遺跡、元宿遺跡が挙げられる。元宿遺跡では、奈良時代の住居跡や掘立柱建物跡が検出されている。

中世・近世

川島町内には、三保谷や小見野などの字名が認められる。『吾妻鏡』の中に散見される中世の武蔵武士、三尾谷十郎広徳や小見野四郎盛行はこれらの地を根拠地としていた。中世期の遺跡は、三尾谷十郎広徳の館跡とされる廣徳寺遺跡(31)の他、白井沼遺跡・宮ヶ谷戸遺跡(19)・尾崎遺跡・極楽寺遺跡(17)・吹塚古墳(14)・堂地遺跡・元宿遺跡・富田後遺跡・正直稲荷町遺跡(8)・上伊草堀ノ内遺跡(41)・華蔵院地藏堂遺跡(15)・東福院遺跡(42)が確認されている。このうち堂地遺跡では、掘立柱建物跡8棟、溝跡

37条などが検出された。中国産の白磁・青磁の他、大量の木製品が出土し、13世紀の館跡であった可能性が考えられている。

近年の発掘調査では、中・近世の掘立柱建物跡や溝跡が検出された、三尾谷の宿とも言われている元宿遺跡や、区画溝や掘立柱建物跡、井戸跡とともに青磁や木製の紡錘車が出土し、13～14世紀の館跡の可能性のある富田後遺跡がある。

町内では他に、三尾谷十郎広徳が開基となって寺院に改められたとされる廣徳寺、広安4（1281）年銘板碑を最古として合計23基の板碑が保存されている下伊草の東福院など、中世にまで遡ると推定される寺院が現存している。

周辺の台地や丘陵上には15世紀代を中心とする多くの城館が立地する。川島町北西の比企丘陵上には松山城が存在する。川島町西側の入間台地上では川越市河越館跡（79）や、大堀山館跡（71）、戸宮前館跡（70）、宮前館跡（72）等の城館跡が建てられている。また、館跡に近い古海道東遺跡（内田2007）の発掘調査では中世の鎌倉街道と推定される堀兼道が発見されている。大宮台地では、北本市に13世紀の石戸氏館と言われている堀ノ内館跡（96）、16世紀には機能していたとされる石戸城跡が検出されている。

このように、中世期の川島町は各台地や丘陵上に存在する城館跡に四周を囲まれ、あたかも空閑地となっている。しかし、堂地遺跡のような、館や堀跡の検出例は今後も増加することが予想される。また、町域の大部分を構成する後背湿地は格好の稲作地帯であり、早くからの開墾があったと推定される。平沼一丁田遺跡周辺においても、『小田原所領役帳』や『新編武蔵国風土記稿』に平沼の地名が認められ、平沼村の存在が推測される。

近世の川島町は川越藩の支配を受け、町域のほとんどが川越藩領となる。しかし、明和4（1767）年の秋元氏の山形移封の際、町域の一部の村が秋元氏の領地として残り、山形分領と川越藩領が交

錯する地となっていた（川島町2008）。そのような世情の中、平沼一丁田遺跡の屋敷跡は構築されたものと考えられる。

他に川島町内で近世の調査例は少なく、尾崎遺跡、元宿遺跡、富田後遺跡などがある程度である。しかし、町城南東部の上大屋敷は代官頭伊奈忠次の陣屋跡とされ、近世中期以降は町城西側の中山地区に秋元氏の山形分領の陣屋が置かれていた。平沼一丁田遺跡は、秋元氏の山形分領の中に入っており、今後調査が増加すれば近世の川島町の様相も明らかになっていくと考えられる。

最後に低地に位置する川島町での、河川の氾濫と築堤の歴史について簡単に触れておきたい。古代における築堤の痕跡は認められないが、『吾妻鏡』貞永元（1232）年2月26日条に、坂戸市横沼付近における越辺川横沼堤の決壊の記述があり、鎌倉時代初期には川島側に築堤されたことが窺われる。戦国期には川島町を囲む築堤はある程度完成していたと推定され、永録6（1563）年伊草郷の築堤、慶長年間における伊奈忠次の川島領囲堤の増築などの記録が僅かに残っている。寛永6（1629）年に久下における荒川の瀬替えが行われると氾濫が増加し、慶安年間（1648～1651）には松平信綱によって川島囲堤の大増築が行われた。その後、大きな決壊は見られなかったが、安永9（1780）年の大洪水以降決壊が相次ぎ、弘化3（1846）年に松平斎典によって大増築が行われ、明治年間まで川島町を水害から守ってきた。その後、荒川水系の堤防整備や河川改修が国の治水事業として行われ現在に至っている。中世から現在に至る川島町や周辺地域の河川との戦いの歴史は、中世や近世の川島町の成り立ちを考えるうえで、重要な要素であるといえる。

主要参考文献

- 川島町 2006 『川島町史』資料編 地質・考古
- 川島町 2007 『川島町史』通史編 上巻
- 川島町 2008 『川島町史』通史編 中巻

第1表 遺跡一覽表

市町村	番号	遺跡名	時代	市町村	番号	遺跡名	時代			
川島町	1	東野遺跡	縄文	坂戸市	65	上谷遺跡	古墳			
	2	平沼一丁田遺跡	縄文 古墳 中・近世		66	大穴城跡	中・近世			
	3	芝沼堤外遺跡	縄文		67	古海道東遺跡	奈良・平安 中・近世			
	4	宮ノ町遺跡	奈良・平安		68	下小坂古墳群	奈良・平安			
	5	安楽寺遺跡	古墳 奈良・平安		川越市	69	牛原遺跡	縄文 中・近世		
	6	稲荷塚遺跡	古墳			70	戸宮前館跡	旧石器 中・近世		
	7	根岸稲荷神社古墳	古墳			71	大堀山館跡	中・近世		
	8	正直稲荷町遺跡	古墳 奈良・平安 中・近世			72	宮前館跡	中・近世		
	9	新田町遺跡	奈良・平安			73	登戸遺跡	縄文 弥生 古墳 中・近世		
	10	経塚遺跡	古墳			北本市	74	会下遺跡	弥生 古墳 奈良・平安 中・近世	
	11	山王塚古墳	古墳				75	花見堂遺跡	弥生 古墳 奈良・平安 中・近世	
	12	正直玉作遺跡	古墳				76	浅間下遺跡	古墳 奈良・平安 中・近世	
	13	塚ノ腰古墳	古墳				77	日枝神社遺跡	古墳 中・近世	
	14	吹塚古墳	古墳 奈良・平安 中・近世				78	龍光遺跡	奈良・平安 中・近世	
	15	華蔵院地藏堂遺跡	古墳 中・近世				79	河越館跡	奈良・平安 中・近世	
	16	西見寺遺跡	奈良・平安				80	天王遺跡	奈良・平安 中・近世	
	17	極楽寺遺跡	古墳 奈良・平安 中・近世				81	山王久保遺跡	奈良・平安 中・近世	
	18	上八ッ林古墳	古墳				桶川市	82	霞ヶ関遺跡	弥生 古墳 奈良・平安 中・近世
	19	宮ヶ谷戸遺跡	古墳 中・近世					83	南山田遺跡	弥生 古墳
	20	柳町遺跡A区	古墳			84		川越城遺跡	中・近世	
	21	柳町遺跡B区	古墳 奈良・平安			85		上老袋遺跡	縄文	
	22	大塚古墳	古墳			86		入間川東河床遺跡	縄文	
	23	村並遺跡	弥生 古墳 奈良・平安		87	入間川西河床遺跡		縄文		
	24	尾崎遺跡	古墳 奈良・平安 中・近世		北本市	88		阿弥陀堂遺跡	古墳 奈良・平安	
	25	富士浅間塚古墳	古墳			89		宮岡遺跡	古墳 奈良・平安	
	26	愛宕塚古墳	古墳			90		雷電遺跡	縄文 古墳 中・近世	
	27	元宿遺跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 中・近世			91		市場I遺跡	縄文 奈良・平安 中・近世	
	28	荒川河床市野川合流地点遺跡	縄文			92		問屋坂遺跡	古墳	
	29	荒川河床太郎右衛門橋付近遺跡	縄文			93		諏訪山北遺跡	古墳	
	30	廣徳寺古墳	古墳 中・近世			桶川市		94	八重塚遺跡	旧石器 縄文 弥生 古墳 奈良・平安 中・近世
	31	廣徳寺遺跡	中・近世					95	諏訪山南遺跡	古墳 中・近世
	32	養竹院内古墳	古墳					96	堀ノ内館跡	中・近世
	33	慶徳寺古墳	古墳					上尾市	97	下宿遺跡
	34	荒川河床遺跡	縄文		98				元屋敷遺跡	縄文 古墳 奈良・平安
	35	西谷遺跡	古墳		99				庚塚遺跡	古墳 中・近世
	36	浅間塚古墳	古墳		100		宮岡II遺跡		縄文	
	37-1	入間川河床遺跡A地点	縄文		101		氷川神社北遺跡		縄文	
	37-2	入間川河床遺跡D地点	縄文		102		大平遺跡		旧石器 縄文 古墳 中・近世	
	37-3	入間川河床遺跡G地点	縄文		103		東台I遺跡		古墳	
	38	上麻天神社遺跡	奈良・平安		104	台原遺跡	弥生 古墳			
	39	中麻正泉寺遺跡	奈良・平安		105	前原遺跡	縄文 古墳 中・近世			
	40	堂地遺跡	古墳 奈良・平安 中・近世		106	西台遺跡	縄文 古墳			
	41	上伊草堀ノ内遺跡	奈良・平安 中・近世		107	川田谷古墳群	古墳			
	42	東福院遺跡	中・近世		108	中台II遺跡	古墳			
	43	白井沼遺跡	縄文 古墳		109	永久保I遺跡	弥生			
	44	富田後遺跡	縄文 古墳 奈良・平安 中・近世		110	若宮台遺跡	古墳			
	45	森谷稲荷古墳	古墳		111	三ツ木遺跡	弥生 古墳 中・近世			
	東松山市	46	東町遺跡		古墳 奈良・平安	112	谷津貝塚	縄文		
		47	下道添遺跡		弥生 古墳	113	愛宕西遺跡	縄文		
		48	古凍根岸裏遺跡		弥生 古墳 中・近世	114	荒川河床内遺跡	縄文		
		坂戸市	49		附島遺跡	弥生 古墳 中・近世	115	後山遺跡	縄文 古墳	
			50		別所遺跡	弥生	116	小谷津遺跡	縄文 古墳	
			51		雷電塚古墳群	古墳	117	下遺跡	旧石器 縄文 古墳	
			52		牛塚山古墳群	古墳	118	堀口遺跡	縄文	
			53		小沼堀之内遺跡	古墳	119	宮内IV遺跡	縄文 古墳 奈良・平安	
			54		木曾免遺跡	旧石器 弥生 古墳 奈良・平安 中・近世	120	畦吉貝塚	縄文・古墳	
			55		北谷遺跡	縄文 古墳 中・近世	121	在家遺跡	旧石器 縄文	
			56		横沼新田遺跡	奈良・平安 中・近世	122	箕輪II遺跡	縄文 弥生 古墳	
			57		番匠・下道遺跡	旧石器 縄文 奈良・平安 中・近世	123	宿北V遺跡	縄文	
			58		御新田遺跡	旧石器 縄文 中・近世	124	宿北II遺跡	縄文 古墳 中・近世	
			59		駒方遺跡	奈良・平安 中・近世	125	箕輪I遺跡	旧石器 縄文 弥生 中・近世	
			60		住吉中遺跡	奈良・平安	126	平方貝塚	縄文	
			61		宮町遺跡	奈良・平安	127	稲荷台遺跡	縄文 弥生 古墳	
			62		景台遺跡	縄文 中・近世	128	薬師耕地前遺跡	縄文 弥生 古墳	
63			高窪遺跡	古墳						
64			天王山古墳群	古墳						